

## 第4回 アンテナショップのあり方検討委員会（議事要旨）

1 日時 令和5年11月1日（水） 13:30～15:00

2 場所 県庁第二庁舎5階 観光文化スポーツ部会議室

3 出席者（敬称略）

### 【委員】

安藤 大輔（一般社団法人田沢湖・角館観光協会 会長）

伊藤 明子（株式会社ドレッシング・エー 代表取締役）

畠田 千鶴（一般財団法人地域活性化センター メディアマーケティングマネージャー）

日景 賢悟（秋田活性化株式会社 代表取締役）

### 【オブザーバー】

真鍋 弘毅（秋田県あきた未来創造部 移住・定住促進課 課長）

小笠原 晋（秋田県観光文化スポーツ部 誘客推進課 課長）

熊谷 僚子（秋田県東京事務所 あきた売込み課 副所長（兼）課長）

### 【事務局】

佐々木 重夫（秋田県観光文化スポーツ部 次長）

黒澤 正弘（秋田県観光文化スポーツ部 食のあきた推進課 課長）

武田 三郎（秋田県観光文化スポーツ部 食のあきた推進課 アドバイザー）

本間 勉（秋田県観光文化スポーツ部 食のあきた推進課 チームリーダー）

藤原 由佳（秋田県観光文化スポーツ部 食のあきた推進課 副主幹（兼）サブリーダー）

富樫 史弥（秋田県観光文化スポーツ部 食のあきた推進課 主任）

4 事務局 佐々木次長あいさつ

前回、アンテナショップの今後のあり方に関する報告書の素案をお示しし、店舗運営への県の関与の仕方やECの取組、ふるさと納税、飲食提供の見直しなど、さまざまなお意見をいただきました。

その後、内部で検討を行い、表現の修正及び内容のブラッシュアップ等を行

い、本日、皆様に報告書の案としてお示しさせていただく。

報告書に記載の取組を一度に実施することは難しいが、できることから一つずつ具体化して進めていきたいと考えている。

本日が最後の検討委員会となるので、報告書の内容とともに、今後の取組に向けてのご助言なども併せて承ることができれば大変ありがたい。

## 5 協議・説明事項

(1) 東京アンテナショップ「あきた美彩館」の今後のあり方に関する報告書(案)について

□事務局

(資料1、2、3により説明)

### (2) 意見交換

○ 日景委員

今後のスケジュールについて、令和8年3月末の賃貸借期限が迫っている中で様々な判断をしなければならないと思うが、品川の店舗をリニューアルするという方向で決まっているのか。

□ 事務局 黒澤課長

「現在の立地のままの場合でも、必要に応じて、飲食機能の見直し等に伴う最小限のリニューアル工事を実施する」想定としている。

移転する場合、すぐに撤去するものに対して大規模に公費を投入することの是非が問われる。品川地区の再開発の予定が当面ないことを確認したうえで大がかりな改装を行うか、あるいは見通しが不透明なので小規模に行うかという判断が必要になると思う。

○ オブザーバー 誘客推進課 小笠原課長

資料3の「今後のスケジュール」については、報告書と一緒に提出するのか。

□ 事務局 黒澤課長

アンテナショップのあり方検討にあたって関係するかもしれないということと本日説明したところである。

□ 事務局 佐々木次長

資料3②の移転する場合については、現時点での仮定の話に過ぎないため、報告書と合わせて提出することは避けた方が良いのではないかと。

□ 事務局 黒澤課長

報告書本体で内容は完結していると思う。

□ 事務局 佐々木次長

報告書では、飲食提供機能を見直す方向としている。検討委員会でも様々なご意見をいただいていたが、飲食の機能を見直すとすれば、秋田ブランドをどのように見せていくのか、どのようなメニューを提供していくのか、どのような素材を使うのかなど、しっかりと検討していかなければならないので、今後検討の場を設ける必要があるだろうと考えている。

○ 安藤委員長

仮に移転するとなった場合でも、今回の報告書でまとめた内容が全く無駄だということではなく、アンテナショップが抱える課題は当然に解消していかなければならない。

課題認識やその対応、アンテナショップに求められる基本的な機能については、移転したとしても生かせると思う。

○ オブザーバー 誘客推進課 小笠原課長

今後の想定として、タイミングが合えば「アキタコアベース」と一緒になることも検討していくのか。

□ 事務局 佐々木次長

タイミングが合えば、一緒になることは考えられると思う。

○ オブザーバー 移住・定住促進課 真鍋課長

「アキタコアベース」の賃貸借契約は、現在のアンテナショップの契約期間も踏まえて、今年8月から令和8年7月末までの3年契約としている。そのため、新店舗オープンのタイミングに合わせて、一緒になることも可能である。

○ 畠田委員

資料1について、「外部環境の変化」のところで、家主から立ち退きを求められた場合の文言があるので、移転する可能性についても検討した足跡を残してはどうか。

□ 事務局 佐々木次長

再開発の計画が明らかになったときには、検討するということが報告書の本体では明記している。

□ 事務局 黒澤課長

ここから、報告書の書きぶりについて、参考資料のテーマごとに確認させていただきたい。

はじめに、ECについて、10ページと16ページに関連の記述があるが、こうした書きぶりで問題ないか。

○ 安藤委員長

16ページの「相互の利用拡大」については、例えば、来店客をECへ誘導したり、ギフトの需要に結びつけるといったことかと思うが、来店特典、イベント紹介など、もう少し具体的に書ければ書いた方がいいと思う。

□ 事務局 黒澤課長

もう少し具体的な例を書き加えたいと思う。

続いて、15～17ページの飲食提供機能に関する書きぶりはどうか。

○ 安藤委員長

前回、東京事務所から立ち飲みが非常に好評だと伺っていた。「イートインやカフェ、バー等の簡易なスタイルへの転換を検討する」とあるが、こちらも具体例を入れた方がいいのではないか。

□ 事務局 黒澤課長

ご参考までに、先日運営事業者と話をしてきた。提供メニューとして「ソフトクリームやジェラートなどはどうか」と話したところ、ソフトクリームの提供は過去に検討していたが、諸事情で断念したとのことだった。

ジェラートは、自社で加工したさつまいもを使用したジェラートなどを提供できそうだと話していた。

○ 畠田委員

現在、東京ではおにぎりがブームになっている。秋田にはせつかく良いお米があるので、メニューに加えるのもいいかもしれない。

○ 安藤委員長

伊藤委員も、県でサキホコレを推しているのに全然見ないと話していた。

○ 伊藤委員

あきたこまちのおにぎり、サキホコレのおにぎり、といったように米別で提供されるとおもしろいと思う。

○ 畠田委員

イベントの時だけでも提供したらおもしろいのではないか。行列ができると思う。

□ 事務局 黒澤課長

運営事業者との協議の中で、金看板である郷土料理についても話が出た。

例えば、稲庭うどんをグリーンカレーにつけて食べるなど、新しい食べ方が出てきているので、そうした新しいメニューも検討していきたいとの話や、若者向けのメニューも考えていきたいとの話があった。こうしたメニューが提供できれば、変化も生まれてくるように思う。

○ 伊藤委員

運営事業者側は、飲食提供機能の「簡易なスタイルへの転換」という点に違和感はないか。

□ 事務局 黒澤課長

品川地区の再開発計画が不透明な中、店舗の大規模改造はできないという前提のもとで協議を行ってきたが、郷土料理を提供しつつ、メニューをバラエティ豊かなものにすることや、若者向けのメニューを提供するといった方向性

についてはご了解いただいたものと認識している。

○ 伊藤委員

ババヘラアイス商品も販売しているが、ババヘラはその場で盛ってもらうパフォーマンスを含めておいしく感じるのもあって、それが付加価値であるとも思う。

□ 事務局 黒澤課長

メニューについては、運営協議会などを通じて内容を詰めていければと考えている。

前回の会議で、日景委員からは「大館の人は、きりたんぽを食べる時に鍋を囲んで食べるのではなく、器に盛って席に運んできて食べる」といった話をされていた。そのニュアンスを17ページに「郷土料理をより手軽に食べられる」といった表現で記載したが、問題なさそうか。

○ 日景委員

この書きぶりで伝わると思う。

□ 事務局 黒澤課長

承知した。また、ふるさと納税の活用についても意見が出たことを踏まえ、16ページ「その他の機能」の箇所に付け加えている。

県のふるさと納税の所管課との調整が必要であり、現時点で結論までは書けないため、「検討する」という形で記載させていただいた。この書きぶりで問題ないか。

○ 日景委員

アンテナショップの来店客が、商品をレジに持ってきて、その場でふるさと納税を行えば、商品と交換できるような活用方法をイメージしている。即時性を活かせるような仕組みであればいい。

□ 事務局 富樫主任

「チョイス pay」のように、あらかじめふるさと納税を行うことで、ポイントが付与され、アンテナショップで会計する際、そのポイントで支払うことが

できるといった仕組みがあり、他自治体でも活用されている。

○ 日景委員

アンテナショップに買い物に来た人にふるさと納税をしてもらえるような仕組みができればと思う。

○ 事務局 藤原副主幹

そうした手法を取っている自治体もある。

○ 日景委員

導入するとなると、商品の棚割りも、市町村別に分けることも必要かもしれない。

□ 事務局 佐々木次長

そうした必要が生じるかもしれないし、商品そのものの変更も必要になるかもしれない。一方で、市町村の意向を全部取り入れられるかということ、運営事業者も民間企業なので、難しい面もあるかもしれない。

実際にやるとすれば、県だけでなく市町村にも費用を負担してもらうことも必要かと思う。

○ 日景委員

全て県費での負担ではなく、市町村からも協力してもらえば、オール秋田で取り組んでいくという機運にもつながるのではないか。

□ 事務局 黒澤課長

取組の手法については、もう少し検討していきたいと思う。

○ 日景委員

他県ではどのように取り組んでいるのか。

○ 畠田委員

ふるさと納税用の商品のゾーニングを行っていたりする。

- 事務局 黒澤課長  
実際のところ、反響はあるか。
  
- 畠田委員  
ふるさと納税を活用したシステムができた、という話は聞くが、各県に反響を調査したことはない。
  
- 日景委員  
ふるさと納税を活用したシステムは是非導入してほしい。
  
- 事務局 黒澤課長  
強いご意見があったということは受け止める。  
その他、観光PR機能やイベント機能については、積極的な情報発信ということを書かせていただいたが、書きぶりとしてどうか。  
前回の会議で、日景委員からは、情報発信を担う人がいればいいのでは、といった意見があったが、現実的にそうした役割の人を置くことがすぐにはできない状況である。そのため、まずは県や運営事業者が情報発信をしっかりと行っていくことがスタートと考え、このような書きぶりとした。
  
- 日景委員  
私の意見は変わっていない。県はビジネスマンではないし、とはいえ現場としては店のオペレーションで精一杯だと思う。そうになると、観光PRや移住相談など、秋田に人を連れてくるような動きができる人がいないといけない。  
人を雇わなくても、東京の会社などに委託してもいいと思う。そうした機能は必要だと思う。
  
- 事務局 黒澤課長  
SNSでの情報発信は、以前よりは積極的に行ってはいるものの、そこも限界があるように思う。
  
- 日景委員  
私の意図としては、情報発信を行う人という意味ではなく、プロデュース的な役割の人いた方がいいのではという話である。



○ 伊藤委員

客観的に見てくれるような人がいる方が、いろいろな気づきがあるかもしれない。

観光PRと連動させるようなアイデアを出し合ったり、話し合いができれば、より活性化すると思う。

○ 畠田委員

その通りだと思う。

ちなみに、T県では常時コンシェルジュ2名がいて、観光案内をしながら、店舗の案内、おすすめ商品を紹介したり、フレキシブルに動ける人を置いていて、アンテナショップに来る方のため情報提供の交通整理をしている。

○ 安藤委員長

観光部門では、どうやって観光情報を発信していくかということに苦労しているが、これまで、アンテナショップを活用した発信は行ってこなかったのではないか。

観光協会の立場としては、東京で情報発信したいという思いはあるものの、費用がかかるし、場所がない状況である。同じ観光文化スポーツ部の中で、一方で需要があり、もう一方で場所があるにも関わらず、そこが連携できてないという点で、非常に問題があると感じている。

○ 畠田委員

情報発信の場として、アンテナショップの持つ力は大きいと思う。

□ 事務局 佐々木次長

今でもできることはある。部署ごとの連携はしっかりとしていきたい。

□ 事務局 黒澤課長

食と観光を関連づけて取組を進めることで、関係人口、交流人口の増加に繋げるということが部全体のミッションであり、連携が十分でない面については改善を図っていきたい。

○ 畠田委員

一つ、書きぶりで気になったのが、10 ページの「他県のアンテナショップ等と比較して取組が十分とはいえない」と言い切っているのかというところ。

例えば、「他県のアンテナショップでは先進的な取組を積極的に進めているので、秋田県でも進めていく」という位で、あまり謙遜し過ぎなくてもいいのではないか。

□ 事務局 黒澤課長

確かに、美彩館ががんばれている部分もあるので、表現を改めたいと思う。

○ 日景委員

別の話になるが、「2024 年問題」が話題になっている。今後、新幹線を活用した商品輸送については、積極的に取り組んでいく考えはあるのか。

将来に向けて、検討が必要かと思うがどうか。

□ 事務局 黒澤課長

新幹線輸送「はこびュン」の取組は既に行っているが、現状ではイベント的に活用している状況である。

確かに、トラック輸送がままならないという事態になれば、代替手段は考えなければいけないと思う。

○ 日景委員

この報告書には盛り込まなくてもいいが、将来、アンテナショップの立地を考える中で、そうしたことも考えていく必要があると思う。

□ 事務局 黒澤課長

その他、20 ページの立地に関する書きぶりについて、前回の検討委員会でご指摘いただいた表現を改めている。

また、「今後の東京アンテナショップの立地について」では、現時点では踏み込んだ内容は書けないことから、このような書きぶりとしている。

その他、15 ページの「店舗運営への県の関わり方」について、運営事業者の意向を尊重しつつ、協議しながら改善を図っていくとしている。

こちらについては問題ないか。

- 安藤委員長  
これ以上踏み込んだことは書けないのではないかと思います。
  
- 事務局 富樫主任  
運営にあたってプロデューサー的な役割の人を置くべき、という意見について、報告書の中にそうした内容を盛り込むべきか。
  
- 伊藤委員  
「プロデューサー」というとすごく重い印象を受けるが、コンシェルジュとは違うのか。
  
- 日景委員  
私がイメージしているものはコンシェルジュとは異なる。現場と県の間  
に立つ人が必要だろうということ。  
現場はオペレーションでいっぱいだと思いますので、運営を俯瞰的に  
見ることができて、県の意向も取り入れながらプロデュースできるビジネス感  
覚を持ったプロ的な人がいれば、よりアンテナショップの機能を発揮しやす  
くなるのではないかと。
  
- 畠田委員  
他県の場合、運営事業者のコンペの段階で、「プロデューサー的な人を運営  
に入れること」と指定しているところもある。
  
- 安藤委員長  
現状を考えるとなかなかハードルが高いので、報告書に書き入れるとして  
も、例えば、第三者委員会から助言を得るとか、アンテナショップに対して定  
期的に外部から意見を求めるとか、その程度の書きぶりで良いのではないかと。  
もう少し、県と運営事業者の間で意思疎通して行って、お互いにやはりプロ  
デューサー的な人が必要となれば、予算措置も必要だと思います。
  
- 事務局 佐々木次長  
検討の仕方の問題であると思うので、あえて「プロデューサー的な人を入れ  
る」と明記しなくてもいいのではないかと。

- 事務局 黒澤課長  
委員の意見の趣旨は十分に理解した。
  
- オブザーバー 移住・定住促進課 真壁課長  
立地の検討にあたっては、適地を事務局で決めた後で、外部に意見を求めるのか。
  
- 事務局 佐々木次長  
外部に意見を求めず、内部で決める可能性もある。
  
- 安藤委員長  
ここまでで、報告書に関する意見が一通り出たように思う。
  
- 事務局 黒澤課長  
今回で検討委員会が最後となるので、委員から感想を一言ずつ頂戴できればと思う。
  
- 日景委員  
「なまはげ」という飲食店を始めて、かれこれもう 20 年位になるが、アンテナショップと一緒に、飲食を通じて秋田を体験してほしいという思いからスタートした。  
私は、単に情報発信を行うだけでなく、やはり秋田に来てもらいたい。秋田に人を連れてきて、ひいては移住につながられれば最高なので、今後、そうした機能を発揮できるようなアンテナショップにしてほしい。
  
- 伊藤委員  
以前から美彩館を訪れていて、もう少し入りやすくなればいいのにとか、もう少し別の商品も売ればいいのに、など感じていたが、様々な事情があって、スムーズに変えていくことが難しい部分があることも分かった。  
運営事業者と県で話し合っていくことが重要なので、現場で働いている方々とフランクにコミュニケーションを取って進めていってほしい。

○ 畠田委員

秋田の魅力は「人の優しさ」だと思うので、アンテナショップにもそうした優しさがにじみ出てくれば良いと思う。

その見せ方はすごく難しいが、ブランディングを意識しながら秋田県一体となって協力して取り組み、いい方向に進んでほしい。

○ 安藤委員長

皆さんから様々なご意見いただき、報告書としてまとめられたことは非常によかった。

食品製造事業者の立場としては、県内の人口減少＝マーケットの縮小に繋がっており、食品事業者の廃業がどんどん進んでいる。これからマーケットをどこに求めるかとなった時に、首都圏、東京は非常に大きなマーケットである。その足がかりとしてアンテナショップの存在は非常に重要であるし、そうした意味でアンテナショップの価値も増してきているので、これからより良い形で進んでほしい。

他に意見がなければ、以上で進行を事務局にお返りする。

□ 事務局

本日は長時間にわたりご審議いただき感謝申し上げます。以上をもって、第4回アンテナショップのあり方検討委員会を閉会する。